

図3 調査地点位置図（地点No.32・33は範囲外）

表1 加曽利貝塚調査一覧

地点No.	調査次	区分	調査年
1・2	第1次	北貝塚	1962(昭和37)年
3~9	第2次	南貝塚	1964・1965(昭和39・40)年
10~12	第3次	北貝塚	1965・1967(昭和40・42)年
13~15	第4次	北貝塚	1966・1967(昭和41・42)年
16~18	第5次	北貝塚	1968(昭和43)年
19	第6次	東傾斜面	1968(昭和43)年
20~23	第7次	東傾斜面	1970~1973(昭和45~48)年
24	第8次	東傾斜面	1973・1974(昭和48・49)年
25	第9次	南貝塚 東傾斜面	1986~1988(昭和61~63)年
26~28	第10次	南外縁部 南貝塚 東傾斜面	1989・1990(平成元・2)年

地点No.	調査次	区分	調査年
29	第11次	南外縁部	1984(昭和59)年
30~33	第12次	西外縁部	1977・1978・1980・1989 (昭和52・53・55・平成元)年
34~36	第13次	北外縁部	1983・2013・2014 (昭和58・平成25・26)年
37	第14次	南貝塚	2017~2019(平成29~令和元)年
38	第15次	南外縁部ほか	2019・2020(令和元・2)年
39	第16次	南貝塚	2020~2022(令和2~4)年
40	第17次	西外縁部	2022(令和4)年
41	第18次	北貝塚	2023・2024・2025(令和5~7)年

発行者 千葉市教育委員会
生涯学習部 文化財課
発行日 令和7年11月29日

《耳より情報》
これまでの発掘調査の経過を記録した調査日誌や過去の現地説明会資料を見たい方は、こちらのQRコードから見るができます。

特別史跡 加曽利貝塚

特別史跡 加曽利貝塚
令和7年度 発掘調査現地説明会

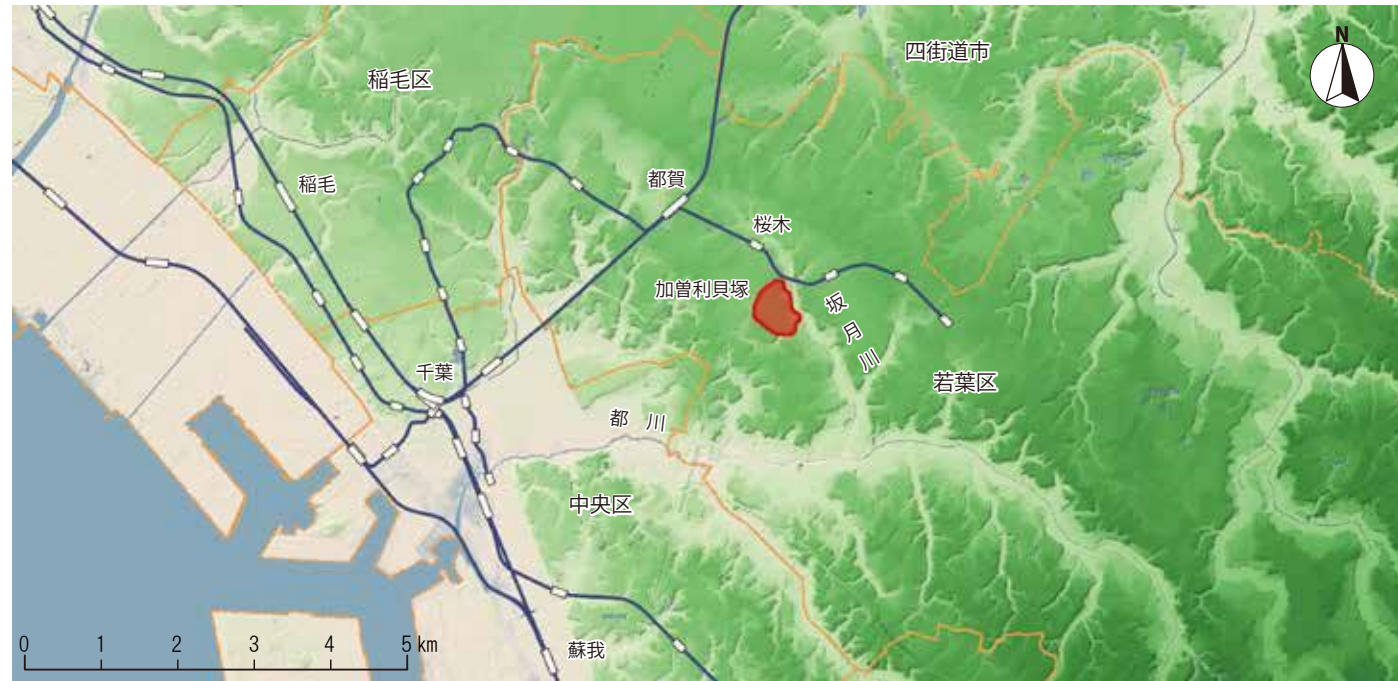


図1 加曽利貝塚位置図（国土地理院 基盤地図情報より作成）

今年度の調査の目的

- ・遺構の分布確認
- （1）柱穴群の精査
- （2）遺物集中地点の精査

※上記により、今後の調査や史跡整備のための情報を得る。

所在地：千葉市若葉区桜木2丁目154番1他
調査期間：令和7年9月17日～11月29日
調査機関：千葉市教育委員会生涯学習部文化財課
調査面積：約500㎡



写真1 発掘調査の様子

発見された遺構と遺物

- 遺構：竪穴住居跡・小竪穴・土坑・柱穴・貝層
遺物：縄文土器〔中期・後期〕
土製品（土器片鍾）
石器（石鏃・石皿・台石）
動物遺体（魚骨・獣骨）



写真2 遺物出土状況（遺物集中地点）

令和 7 年度発掘調査の概要

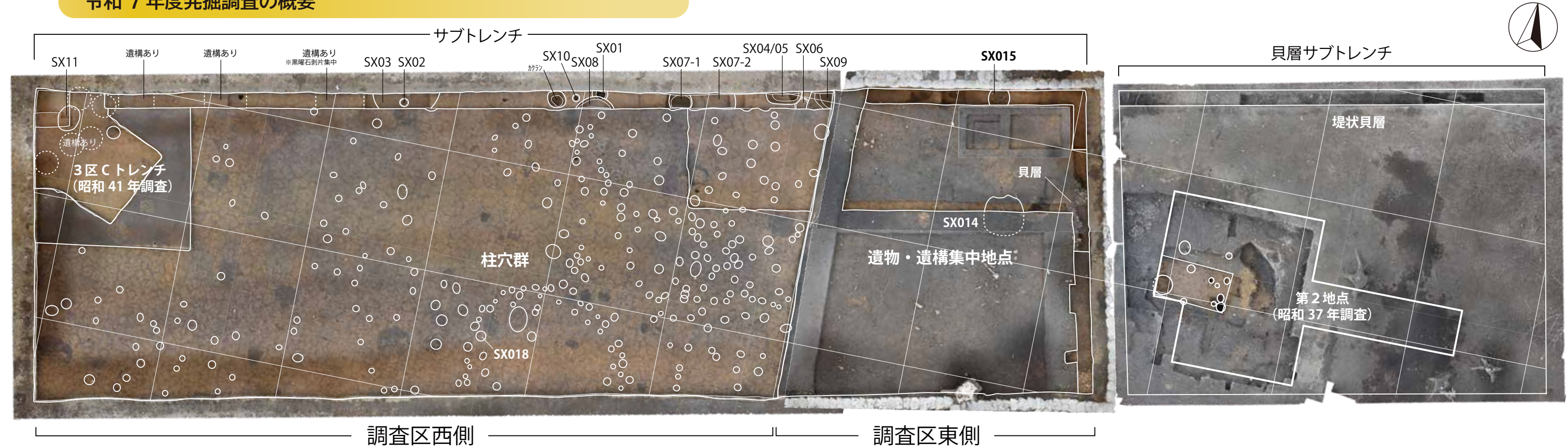


図2 調査区全体図



写真3：柱穴群から出土した土器（SX018）
令和5年度調査で確認した柱穴群の一角から、縄文時代後期の鉢形土器が出土しました。これにより、これまでの調査で推定されていたとおり、柱穴群の時期が縄文時代後期である可能性が高まりました。



写真4：断面で確認された土坑（SX014）
今年度、新たに掘削したサブトレンチ（試掘溝）の断面で、土坑が確認できました。堀之内式土器の破片が多く出土したことから、縄文時代後期の遺構と考えられます。



写真5：土坑から出土した台石類（SX015）
台石類を含む石器3点と中期の土器片がまとまりをもって出土しました。竪穴住居跡（SX017）の床面を掘り抜いて作られ、西隣では小竪穴と接しています。このサイズの石器が加曽利貝塚で出土するのは珍しく、貴重な事例と言えます。



写真6：貝層の検出状況
令和6年度に検出した遺物集中地点の一角から小規模な貝ブロックが検出されました。やや大ぶりのハマグリを含む貝層で、アサリやカガミガイなどの砂底性貝類が目立ちます。出土土器から後期に形成された可能性が高いと考えられます。